

令和7年度 前期学校評価アンケート結果分析

京都市立開晴小中学校

前期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの集計結果につきまして、項目ごとに以下にまとめております。「実現度」の低い項目については、今後の課題と受け止め、優先的に取り組みを進めてまいります。

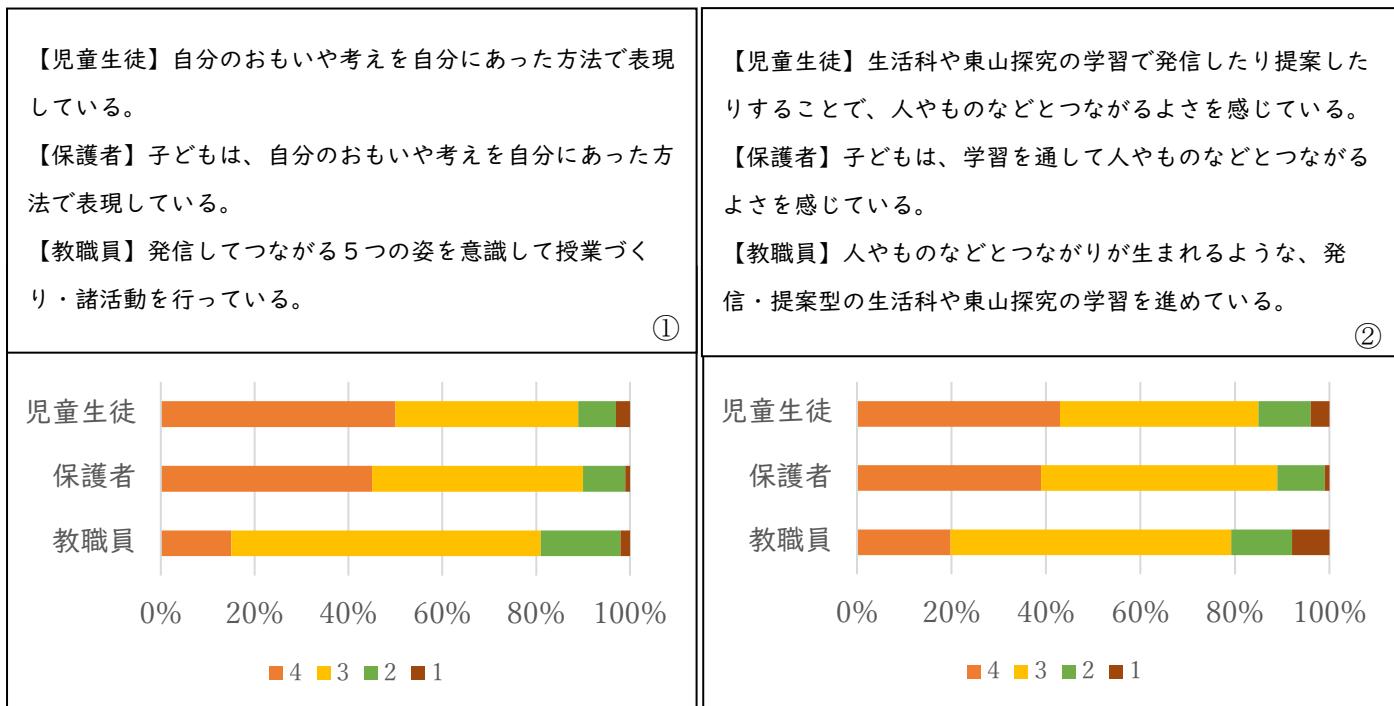
また、自由記述欄につきましても、様々なご意見を頂戴いたしました。すべて保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めさせていただきます。ただ、頂戴したご意見は多様で、そのまますべてを実現することは出来かねますこと、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。アンケートには書ききれなかつたご意見等がございましたら、電話や学校メールにてお聞かせくださいますようお願いいたします。

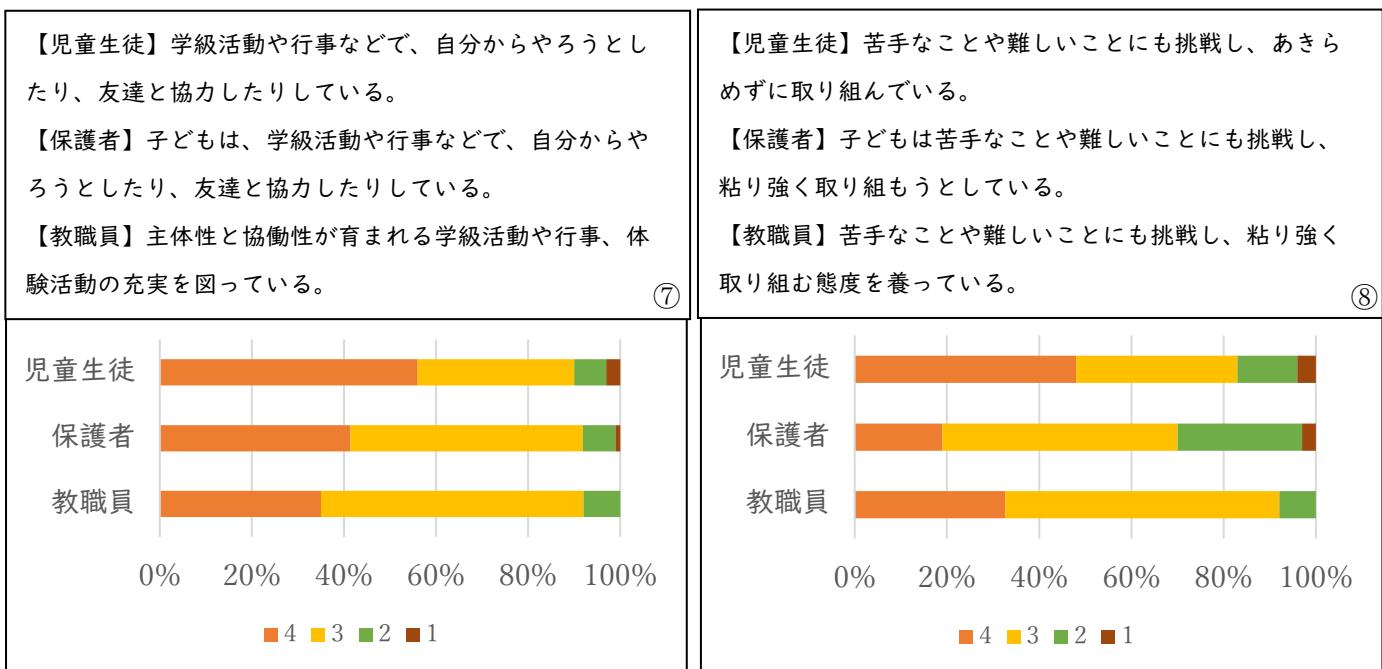
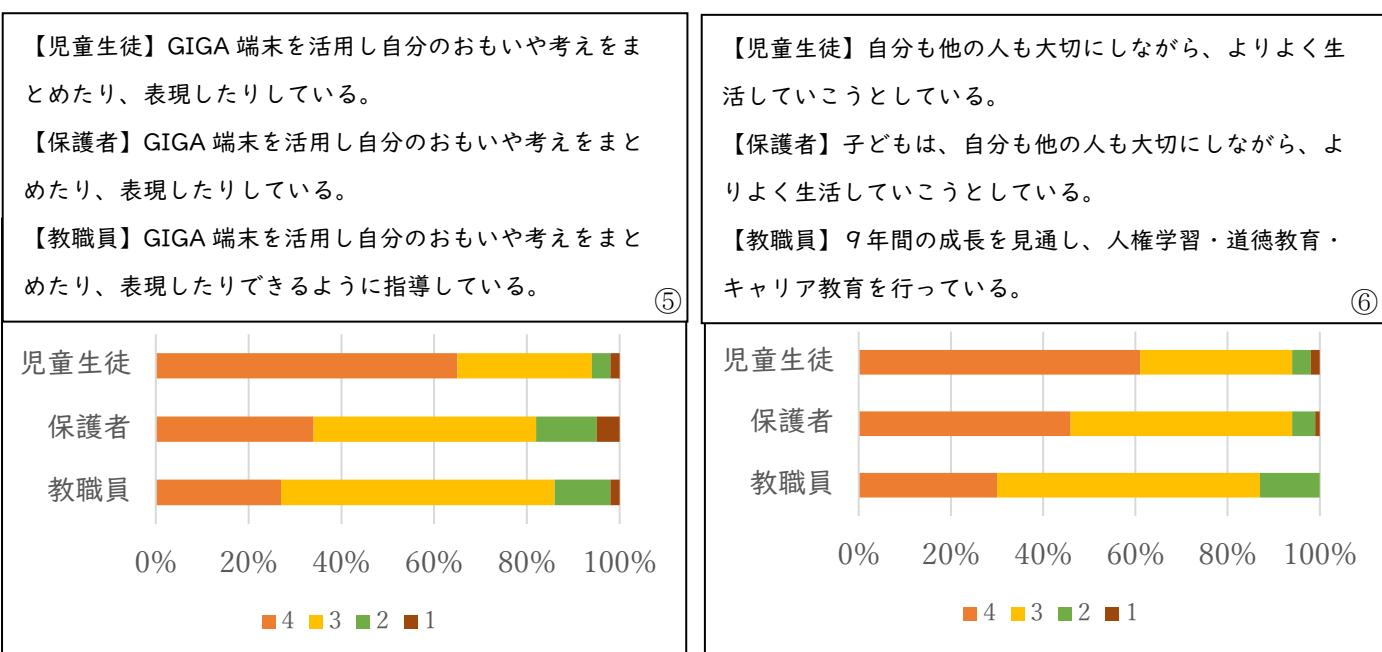
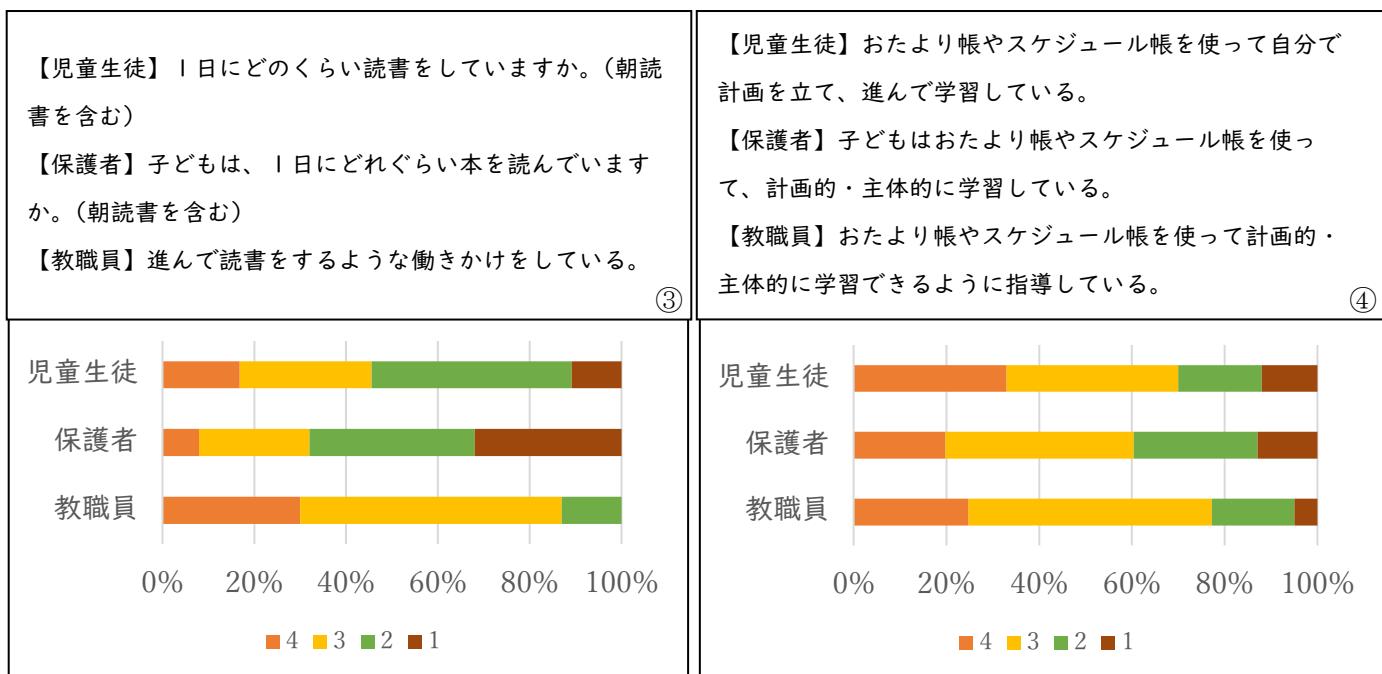
なお、この結果につきましては学校運営協議会理事会の皆様にも供覧し、ご意見をいただいた上で、本年度前期の結果として報告いたします。

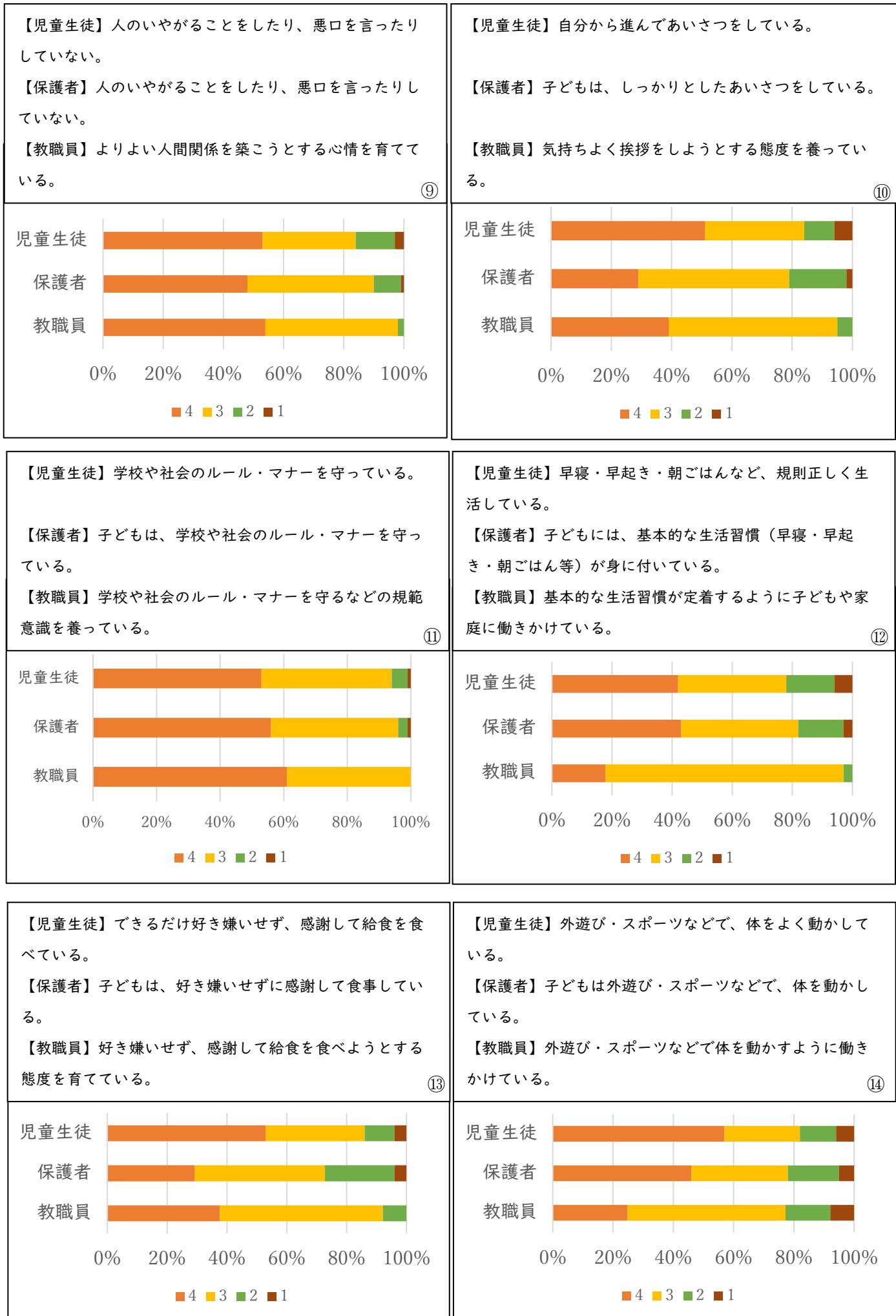
令和7年度前期 児童生徒、保護者、教職員アンケートの結果

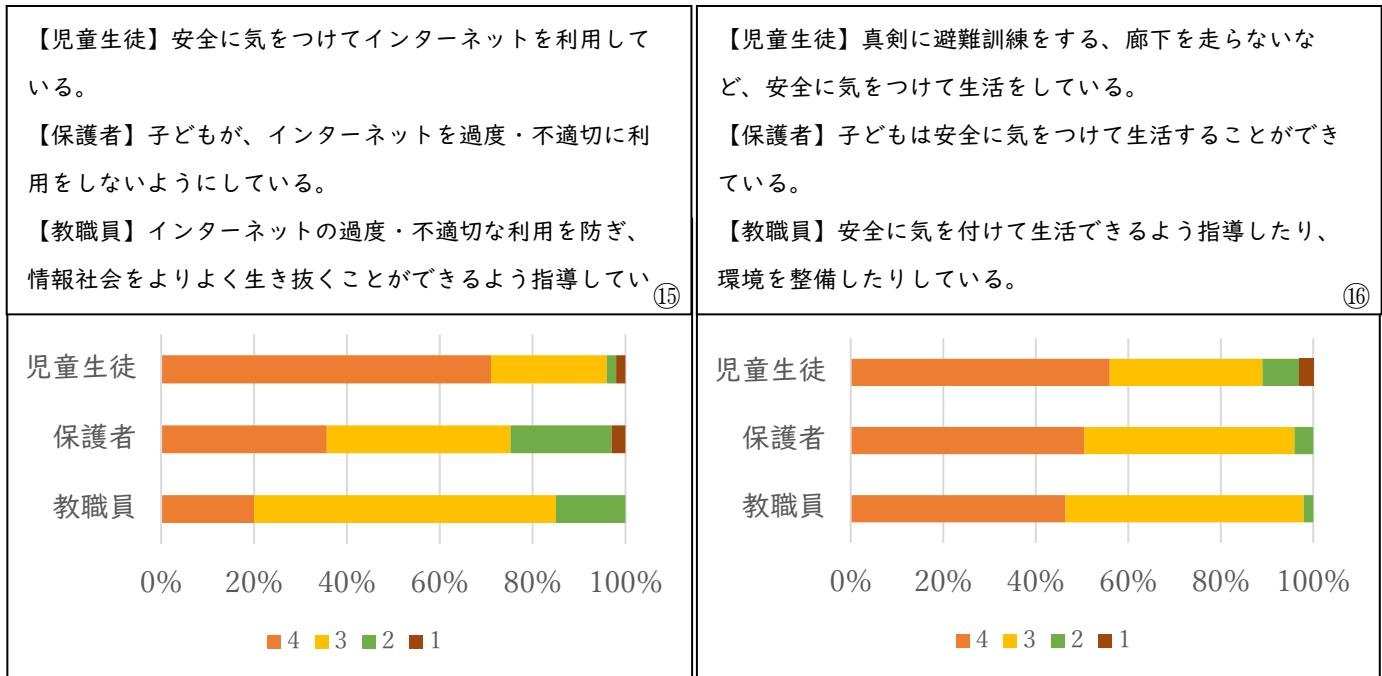
グラフの見方

横軸の帯の色は左から4「そう思う、できている（オレンジ）」、3「ややそう思う、ややできている（黄）」、2「ややそう思わない、ややできていない（黄緑）」、1「思わない、できていない（茶）」を表している。また読書量の児童生徒及び保護者の項目では、4「1日に1時間以上（オレンジ）」、3「1日に30分くらい（オレンジ）」、2「1日に10分くらい（黄緑）」、1「読んでいない（茶）」を表している。









令和7年度前期学校評価アンケートの結果より

□ 確かな学力に関わって

従来より取り組んでいるおたより帳やスケジュール帳「じゅるーちょ」の活用ですが、昨年度と比べ児童生徒の実現度が7ポイント増加しました。(④) 見通しをもって準備できるよう低学年から地道に指導を重ねていくことで、児童生徒がスケジュール管理をし、自分の学習に活かす力が少しずつついてきています。後期課程では終学活の時に「じゅるーちょ」を出し、教科の係から宿題やレポートの締め切り日、パフォーマンステストの予定日などを聞き、書きこんでいます。中には、授業で担当教員よりお知らせがあったらすぐ書き込む生徒の姿もみられます。またこれらの予定から、自分で To-Do リストを作成し活用する生徒もいます。こうした力は生涯を通じて必要とされるものです。スケジュール管理を苦手とする児童生徒にも9年間の中で繰り返し丁寧に指導していきます。

1日30分以上読書する児童生徒の実現度は昨年度とほぼ変わらず 43%ですが (③)、学校図書館の貸し出し冊数は昨年度より大幅に増加しています。昨年度の1学期の総貸出冊数は 10354 冊でしたが、今年度は 12650 冊となり、約 2300 冊も増加しました。これは、低学年の本係や教員、4年生以上の図書委員が、学級文庫として積極的に教室用の本を借りるなどした成果です。様々な制限で休み時間に本を借りに行けない児童生徒の為に、いつでも興味が持てそうな本を定期的に教室や廊下のカートに置くことで、本を手に取りやすい環境作りを行っています。また、試験的に実施した2年生の前の空き教室のレイアウトを工夫し、絵本などを置く取組では、リラックスしながら気軽に友達と本に親しむ姿も見られるようになりました。こうした取り組みで1日30分以上の読書とまではいかなくても、子どもたちは毎日様々な本に親しむことができています。また図書委員会主催の図書委員体験活動やカエルのキャラクターでのおもてなし、学校司書による様々なおたよりやワークシート、100冊読書などの取組で学校図書館の利用も活発になってきています。今後も一人一人の子どもたちが読書に親しめる工夫を継続して行っています。

徳志に関わって

「苦手なことや難しいことにも挑戦し、あきらめずに取り組んでいる。」の項目では昨年度より児童生徒の実現度が5ポイント増加しました。(⑧)教職員の実践も4「そう思う、できている（オレンジ）」のポイントが昨年度より17ポイント増加しています。初めから「やらない」ではなく、「少しずつでいいからやってみよう」という教職員の粘り強い指導が子どものチャレンジにつながっています。その積み重ねで「今まで泳げなかったけど初めて泳げたよ！」「苦手だと思っていた英語が楽しくなってきました。」など、確かな自信や次への意欲につながる子どもたちの言葉を聞くことができました。

「人のいやがることをしたり、悪口を言ったりしていない。」の項目では、実現度は約9割と高いですが、残り1割の児童生徒は課題を感じているようです。(⑨)仲良くしたいのにうまく関われなかったり、後で落ち着いて考えれば分かるのに、いざというときに感情的になってしまい、相手の気持ちを想像できずトラブルになってしまったりする姿がみられます。事実を確認して整理する中で、一人一人の子どものおもいに寄り添い、表面的な指導にならないように丁寧に指導していくことが大切だと考えています。

健やかな体に関わって

「真剣に避難訓練をする、廊下を走らないなど、安全に気をつけて生活をしている。」の項目では昨年度より児童生徒の実現度が6ポイント増加しました。(⑯)休み時間に廊下を歩いていると、「右っ歩やで。」「廊下は歩こう！」と声を掛け合ったり、全校集会や校内放送が始まるとすっと静かになって話を聞こうとしたりすることができ、全体的に落ち着いて学校生活を送ろうとする姿がみられます。しかし、運動場に遊びに行ったり、下校するために昇降口に向かったりする時には、つい夢中になって廊下を走ってしまうことがあるので、安全に気を付け周りをみて行動できるよう今後も指導していきます。

「外遊び・スポーツなどで体を動かすように働きかけている。」の項目では、教職員の実現度が昨年度より12ポイント減少しました。(⑭)今年の夏は連日のように「熱中症警戒アラート」が発令され、暑さ指数が基準を超える時間が増えたため、外遊びができない日がありました。体育の授業や部活動では、活動時間を区切って、こまめに水分補給をしたり、体を冷やしたりしながら進めています。安全に気を付けながら体を動かす機会を保障していく様模索していきます。

保護者自由記述欄にお寄せいただきましたご意見より（表現の一部を修正・省略しています。ご容赦ください。）

9年生に可愛がってもらえたなど、中学生との交流があり、お互いの縦割り意識が芽生えることがよいと思いました。担任の先生をはじめ、色々と細やかな対応をしていただき、感謝しております。中学生まで給食があって、ラッキーだなあと思います。

面談など仕事の調整が必要な予定など、その月にならないと日程が分からるのは困ります。

学校だよりや学年だより、部活動の月予定表など、月初めではなく、前月末にはいただけると有難いです。

今年度になり心がぐんと成長したように感じます。人の気持ちも自分の気持ちも大切にしながら、折合いを付ける力がついています。学習面でも生活面でも、嫌なことから逃げずに向き合う姿も見受けられます。学年団の先生方が一人一人を大切に、取りこぼすことなく日々の指導をしてくださっていることが、子どもから伝わってきます。

慌ただしい日々の中で、出来ていないことばかりに目がいきがち、指摘しがちで、子どもの可能性ややる気を抑圧していないか、毎日自問自答しています。学校は他者との関係や協働を身に付ける場でもありますが、自分らしさを認めて伸び伸び過ごせる場でもあってほしいと願っております。

開校して15年が経ち、上級生が下級生の面倒を見る姿が増えて嬉しい。
9年生の合唱を1stの子どもたちが鑑賞できるようにしたのは良い取り組み。

仕事の見通しを立て、スケジュール管理をするとともに、今日何をすべきかを把握し、必要以上のタスクを自分に課さない。終わったら帰ることも大事。タスクリストを見える化すると、同僚との連携が進む。

家ではあまり本を読む時間がないのではないか。学校での読書時間を大切にしてほしい。

スマホでのLINEトラブルが心配。知らない人とつながるケースもある。少しの事でもいじめにつながってしまう。人間関係は放課後まで続き、子どもたちに逃げ場がないように感じる。

外国人観光客が非常に多く、マナーが心配。子どもを守るために毅然とくり返し注意していくことが大事。